

2024年度 第9回2月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2025年2月12日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数4名
出席総数5名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	石松英昭
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	藤原紀沙
	委員	井出智子

4. 議 題

- (1) 「令和6年度全国中学生人権作文コンテスト栃木県大会最優秀作品作文朗読」

放送日 2024年12月15日(日曜日) 午前ワイド「サンデーとちぎ」内
10:30~11:00の放送

- (2) その他

5. 議事内容

- (1) 「令和6年度全国中学生人権作文コンテスト栃木県大会最優秀作品作文朗読」
について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明：本番組では、「全国中学生人権作文コンテスト栃木県大会」の優秀作品を受賞した本人が朗読し、人権尊重の重要性について考えるきっかけをリスナーに提供します。この企画を通じて、中学生たちの新鮮な視点や思いを共有し、幅広い世代に人権意識を高める一助となることを目指します。

背景：「全国中学生人権作文コンテスト栃木県大会」は、次世代を担う中学生が人権問題について深く考え、作文を書くことを通じて人権尊重や基本的人権の理解を深めることを目的に、宇都宮地方法務局と栃木県人権擁護委員連合会の主催で毎年開催されています。今年度は栃木県内の中学校から合計 17,538 作品もの応募があり、その中から選ばれた最優秀賞を受賞した作品と栃木放送賞を受賞した作品をご紹介します。

各委員からは

○人権尊重の大切さが社会に根付くには、気付き、共有され、当たり前になることが重要です。その中で、中学生が自身の作文を朗読する本番組は、同世代にも多世代にも訴えかける意義深い企画でした。放送局には、今後もこうした番組の継続を期待したいです。ただ、作文の内容は素晴らしいものの、番組は入選記念の側面が強く、もったいないと感じました。単調な構成とトーンで、朗読を流すだけに終始し、聞き流されたり局を変えられたりする恐れがあります。ワイド番組の一部として、作文朗読の前後にパーソナリティが掛け合いでコメントを入れる形にすれば、番組に動きが出て理解も深まるのではないのでしょうか。また、作文の受け取り方は人それぞれですが、真意が十分に伝わっていない部分や、言葉の使い方に気になる点がありました。例えば、エレベーター乗降の場面を「公衆の面前」、バリアフリーの話で「健常者」と言いたかったと思われる箇所が「健全な人」と表現されていました。意図は理解できますが、言葉の選び方には慎重さが求められると思います。

○この番組は非常に良い内容であり、中学生が日常の出来事を振り返り、自分の考えを作文にまとめることは素晴らしいことだと感じました。特に、性的な問題を取り上げた作文については、発表すること自体に大きな勇気が必要であり、その扱いには慎重さが求められると考えます。発言の仕方によっては、本人の人権や思いを傷つける可能性もあるため、今後も配慮が必要ではないのでしょうか。また、若い世代がこうした問題について考え、それを社会が支えていくことが大人の責任だと改めて感じました。番組内で取り上げられたバリアフリーの問題では、「物理的な環境整備だけではなく、人の思いやりが重要だ」という意見がありました。こうした視点を深掘りし、例えばバリアフリーの取り組みや、男女の役割をなくした祭りの事例などを紹介する「後追い番組」があれば、より多くの人に考えてもらう機会になるのではないかと思います。このような放送が今後も続くことで、より多くの人々が人権や社会の在り方について考え、広がりを持つきっかけになることを期待します。

- こうした内容をラジオで聴けたのは良かった。人権問題について、伝統と男女平等、障害者と健常者といった視点から4名の話聞くことができた。普段せわしく生活していると、こうしたことに気もかけず行動・生活しているが、あらためて4名の作文を聞き、なるほどそのように感じている人もいるのかと思った。自分は古い人間なのか、祭事・伝統文化等について、男女の役割はあって当然であり疑問視していなかったが、若い人の中にはそう考えている人もいるのかと改めて感じた。障害者と健常者については、確かに障害者をかawaiiそう、不自由という目線で見ている自分に気づかされた。いずれにしても、相手の立場になって考える、相手に寄り添うという考えが必要なかもしれない。

- 中学生が人権について深く考え、作文コンテストが長年続いていることは、とても意義のあることだと感じました。受賞作品の放送は、受賞者にとって励みになるだけでなく、応募を考える人にとっても良い機会になると思います。また、リスナーにとっても、子どもたちの視点から多くの気づきや発見が得られる、良い番組でした。ただ、番組では栃木放送賞の受賞者のみが紹介され、他の優秀賞受賞者（知事賞4名）の作品タイトルや名前が触れられていませんでした。受賞者が並列であることを考えると、少なくとも名前と作品タイトルは紹介した方が良かったのではないのでしょうか。リスナーが「栃木放送賞が最も重要な賞」と誤解する可能性もあるため、今後は他の受賞者にも触れる配慮が必要だと感じました。

- 番組を聞いていて道徳や倫理の授業を受けているような感覚になりました。子どもたちの話とは思えないほど心に響く内容で、とても良い番組だったと思います。ただ、一つ一つの作文を評価するのではなく、最後に全体をまとめるようなコーナーがあると良かったかもしれません。また、アナウンサーだけでなく、複数の人がコメントを交える形にすれば、より深みが増すのではないのでしょうか。内容については感心させられる点が多かったものの、特に3人目・4人目の朗読は一度では聞き取れず、2回目ようやく理解できました。良い番組なので、今後もぜひ続けてほしいと思います。

- 全体を通して、4作品とも中学生が日常で体験し、素直に感じたことや「こうしていきたい」という思いを作文にしておき、文章も上手で考えさせられる番組でした。番組は、間髪入れずに作文が紹介され、最後にアナウンサーが作品紹介や感想を述べるシンプルな構成で良かったと思います。中学生本人の朗読により、「こんなことを感じているんだ」とリスナーに伝わり、人権について考えさせる趣旨が感じられました。ただ、3つ目の「ごめんねをありがとうへ」は聞き取りづらい箇所があり、内容を理解するには何度か聞く必要がありました。おばあちゃん想いの良い作品でしたが、朗読はプロに任せてもよかったかもしれません。とても良い番組だったので、ぜひ再放送し、多くの人に聞いてもらえたらと思います。

○この番組が「番組の評価」なのか「子どもたちの作文の評価」なのかを考えながら聞いていました。私自身、高校1年生の娘と小学校3年生の息子がいるのですが、中学生になると夏休みの宿題として人権作文の課題が出されます。その際、親として子どもに教えるのは大変ですが、逆に親も「こういうことを考えるのか」と学ぶ機会になり、この番組を聞くことは非常に有意義だと思いました。また、放送の時間や曜日の設定も、リスナー層に合っていたと感じます。小学校でも人権標語の宿題があり、小さいうちから人権に触れることはとても良いことだと感じます。子どもたちの視点の鋭さには驚かされましたし、自分で朗読する経験も貴重だったと思います。思った以上に聞きやすく、良い番組でした。また、人権という大きなテーマを作文にするのは、子どもにとっても大人にとっても難しいことですが、こうした作品を学校の道德の授業で活用できるように提供するのも良いのではないかと思います。さらに、作品が公共の電波で発表されることは、子どもたちにとっても大きな励みになるでしょう。掛け合いがあった方が良いという意見もありましたが、子どもが書いたものに対して大人が評論する形には少し違和感を覚えました。ただ、何人かで「こういうことだよね」と話を膨らませるような構成であれば良いかもしれません。一方で、番組としては作文の朗読だけに絞る形でも十分に成立したのではないかと思います。

○「全国中学生人権作文コンテスト栃木県大会」ということで、どのようなコンテンツなのか、特に、中学生が作文を朗読するという点に少し身構えていました。しかし、朗読の速さはちょうど良く、音声も明瞭で、とても聞きやすかったのが印象的でした。作文の朗読は単調になりがちかと思いましたが、主張が明確で展開も分かりやすく、分量もちょうど良かったです。また、朗読の前後に入っていた解説も適切な長さと感じました。本企画は、中学生の新鮮な視点や思いを共有し、幅広い世代に人権について考えるきっかけを提供することを目的としているとのことですが、その点で、作文を書いた本人が自ら朗読する形式はとてもよかったですと思います。昨今、匿名の発言が良くも悪くも大きな影響を持つ時代であると感じると同時に、AIによる作文能力の向上を感じることも多いです。その中で、自身の名前を出し、自らの言葉と声で直接メッセージを届けることには、新鮮さと重みを感じました。一方で、朗読した中学生たちが悪意ある声に晒されることなく、純粋に思いが伝えられる環境が守られることを願っています。

○新聞でも作文を掲載していますが、実際に朗読されたものを聞いて、子どもたちがどのようなことを考えているのかを知る良い機会になりました。ラジオの良さは、子どもたち自身の声で朗読されることによって発揮されていると感じました。たどたどしい話し方がかえってリアルで、「こんな幼い子がこんなことを考えているのか」と気づかされました。大人にとっても学びのある番組だったと思います。また、このコンテストは長年続いており、新聞でも毎年掲載していますが、時代とともにテーマが変化しているのが印象的でし

た。以前は障がい者や高齢者に関する内容が中心でしたが、最近では性的マイノリティや伝統文化における男女平等といったテーマが取り上げられています。作文の内容そのものも時代とともにアップデートされており、リスナーにとってもその変化を感じられる良い機会になったと思います。番組の構成については、単調ではあるものの、最後にアナウンサーがまとめをつける形は必要だと感じました。ただ、それがわざとらしく聞こえる部分もあり、バランスが難しいところです。作文の内容を掛け合いで評価するのは避けた方がよいと思いますが、テーマを膨らませて議論する形ならば可能かもしれません。全体としてはコメントしづらい部分もありましたが、長く続いているからこそマンネリもある程度は仕方がないのかもしれませんが、それでも意義のある番組であり、今後も継続してほしいと思いました。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2025年3月23日）
- ② 当社のホームページに掲載（2025年3月24日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2025年3月24日～）

以上